

実務実習によって指導薬剤師に生じた内面的変化

森川厚子 大久保敦子 小林きぬ子 及川肇美 中村光子 (茅ヶ崎寒川薬剤師会)

【目的】

2015 年に、「長期実務実習によって指導薬剤師側に生じた内面的変化」の調査を実施し、当学術大会で発表した。それから 11 年経った今、同様な調査を実施した。実務実習が指導薬剤師に及ぼす影響の変化、更に現在の課題を指導薬剤師側から考えることを目的とする。

【方法】

2015 年 (11 年前) に実施したアンケートと同様な調査を茅ヶ崎寒川薬剤師会実務実習委員会に所属する認定実務実習指導薬剤師を対象に実施し、実務実習を行った間の指導薬剤師自身の変化、その内、学生を指導したことによって起きた変化を数値で表現し、11 年前と比較した。更に追加項目を作り、実務実習に伴う実情を調査し、現在の課題や問題点を検討した。結果を匿名化し、研究目的以外に情報を使用しないことを事前に説明し、委員会で対象の実務実習指導薬剤師にアンケート実施の了解を得た。

【結果】

茅ヶ崎寒川薬剤師会の指導薬剤師 15 名に令和 8 年 3 月にアンケート調査を実施し、11 名から回答を得た。学生を指導したことによる影響は、11 年前と類似してはいるが、多少の変化があった。前回調査では服薬指導を最も早く開始した時期が、4 週目頃が多かったが、今回の調査では初日から 2 週目が多く、コアカリ変更による意識変化が現れていた。

更に若い学生との意識のずれを感じたり、職員の協力が得にくいなど、様々な問題点や、現場の苦悩、どのような工夫をしたかなど、具体的な回答を得た。回答者の内 55% が、11 年前も実務実習の指導をしていた。

【考察】

11 年前は長期実務実習開始して間もない時期で、今よりも臨床薬学への興味を高める要因に対して実務実習の影響が大きかった。教育に対する興味は、現在も安定的に維持されている。大学の薬学教育に対する興味への影響は増加しており、大学教育への関心も保たれている。他者に対する寛容性への影響・我慢強さへの影響は減少し、慣れてきていることがうかがえる。医療倫理への影響は微増し、死生観・哲学的思索に対する実習の影響は減少していた。実習開始直後には試行錯誤していた面があるが、今は安定的に実務実習を進めており、様々な問題点を改善している。その中で、現在も、学生を指導することで指導薬剤師は何らかの影響を受けており、それを自分自身の成長につなげることができるであろう。

【キーワード】 (5 単語以内)

実務実習

指導薬剤師

内面的変化